

25 春闘

No.4

弊害があるでしょ！！

春闘と夏季手当の同時議論

JR東日本は、2023年12月に「合理性がある」「生活設計を立てやすくなる」との理由で、2024年度の新賃金と夏季手当の同時期議論が提案されました。

JR東労組は「同時期議論を原則とすることなく、都度の労使合意のもと同時期議論すること」を求めました。

【結 果】

新賃金と夏季手当の同時議論で夏季手当は2.7ヶ月の低額回答。その後、業績の上方修正が行われ、GW輸送がコロナ前を超える好調に！！期末手当にもGWの業績が反映されたのだろうか？人件費管理だったのでは？

弊害

へいがい



社員の努力、過去最高の働き度は加味されてる？

好調な業績が加味されず、低額回答になったことから、同時議論による弊害が生じているとJR東労組は認識しています。多くの企業では春闘時、年間の賞与を議論し、決定することで企業は人件費の管理が容易となります。この場合、夏・冬同額程度になることが特徴です。JR東日本も支給月数の差が縮まり、JR東日本グループでは動きが顕著になっており、新賃金と年間賞与の同時期議論が目指されているのは？？

JR東労組はその都度、職場の努力によってつくり出した業績を基に労使議論し、支給月数の決定を求めます！！